

# 開物成務

発行責任者  
逗子開成学園校友会  
〒249-8510  
逗子市新宿2-5-1  
逗子開成学園内  
TEL.046(871)2062  
https://z-kaisei.org/  
E-mail:info@z-kaisei.org

題字・逗子開成学園  
元理事長 徳間康快氏

「開物成務」の由来  
人間性を開拓・啓発し、  
人としての務めをなす

## 約1800人が集い 記念式典を開催

1903年に、東京の開成中学校の分校「私立第二開成学校」として開校した母校は、今年で創立120周年を迎え、中高の全生徒と関係者を合わせて約1800名が参加して、記念日にあたる4月18日に母校体育館で節目を祝った。

# 逗子開成中学校・高等学校 創立120周年

## 「広がる海、まだ見ぬ景色へ」

式典を迎えるにあたり、生徒たちが「120周年プロジェクトチーム」を結成。式典で発表・配布された記念誌、記念グッズ、式典ビデオの作成チームや地元の人々などを対象に研究する「気候変動対策」のプロジェクトのほか、式典の司会も生徒会高校副会長の高校1年、北島理仁さんが務めた。

式典は、吹奏楽部の演奏により、全員で校歌の斉唱から始まった。学校長、理事長の式辞では、120年の歴史を振り返るとともに、新たに歴史を創り担っていくのは自分たちだという決意を新たにしたいと

生徒たちに呼びかけた。(2、3面に全文掲載)プロジェクトチームプレゼンテーション  
次に、昨年度から立ち上げ、準備してきた生徒プロジェクトチームの紹介。式典で配布された記念誌は「記念誌作成チーム」の生徒たちが取材、執筆、デザイン、編集にあたって作られたことが紹介された。

「気候変動対策チーム」はプレゼンテーションで、未来への提案を。日本、世界での気候変動による被害の実態を伝え、自分たちが出来ることから始め、小さな取り組みでも学校全体、あるいは地域と協力して取り組めば世界は変えられると提案した。

「記念グッズ」チームは、未来に続く記念品「120周年記念グッズ」をふたつ開発した。まずは120周年記念ロゴが印刷されたオリジナルタンブラーで、全校生徒、式典参加者に配布された。タンブラーにかけた思いは、逗子開成の海洋教育の中でプラスチックごみによる海洋汚染やプラスチックの焼却により出る温室効果ガスが気候変動の大きな要因になっていくことを学び、120周年を機に未来のために何か貢献したい、生徒がタンブラーを使えばプラスチックゴミを減らしていくことができることを考えた。また、校内に浄水器の設置を提案し、すでに15台のウォーターサーバーが設置された。

次に、場内にとよめきが起こったのは「逗開120周年記念」ゴズイ君スタンプのLINE公式スタンプ販売決定の発表。合計16個で構成され、販売により得られるLINEスタンプのダウンロードはこちら

分配金は全額をUNICEF(ユニセフ)に寄付し、世界の子どもたちのために役立てる。自分たちの手で世界の子供たちを助けられたらとの思いがこもっている。動画で歴史をたどり、海外からお祝いのメッセージも  
創立120周年記念動画は「式典ビデオ作成チーム」の生徒たちによる取材、編集によって作られた。内容は、逗子開成の歴史が創立から現在まで文字で表示され、七里ガ浜ポート遭難事故と八方尾根遭難事故の部分では女声コーラスによる「真白き富士の根」の歌声の中、事故の経緯が文字で表示された。

その後、応援歌「函嶺の空」の歌声で、徳間元理事長の逗子開成での取り組みを紹介。続いて海外からお祝いのメッセージが送られてきた。活躍する在校生インタビューでは元メディア委員長、吹奏楽部部长、柔道部部长が逗子開成で学んできたことを振り返った。

最後に、吹奏楽部が開成讃歌「海」(團伊玖磨作曲)を演奏した。演奏中に撮影されたプロジェクトチームが撮影した写真を用い、卒業生であり映像デザインが専門の宝塚大学東京メディア芸術学部教授の渡邊哲意さん(高44回)が制作、上映した。(左の写真)

**2022年3月卒業  
(高74回)の皆様へ**  
**【2021年度 卒業生  
成人を祝う会】**  
本誌11ページに詳細を掲載しています。  
ご確認ください。



# 創立120周年記念式典式辞

学校法人 返子開成学園

理事長

志村 政俊



一斉に花開き、草木が芽吹き始めた春の陽光の下で、こうして創立120周年の記念式典を行うことが出来ますのも、返子開成に関わっていただいている皆様のご支援の賜物と、心から感謝申し上げます。

また、ご来賓の皆様には、新年度早々で何かとご多用のところお運びいただき、誠にありがとうございます。

さて、本校は、この返子の地に学び舎を構え、120年の時を刻んできました。学校創設趣意書

で、教育が最も重要である中学の時期においては、「心身の健全な発達を図るには、清浄な空気と爽壇(そうが)なる土地とによるべし」として、自然豊かな返子の地を選んだことに触れています。爽壇なる土地とは、からつとして爽やかな土地ということでしょう。

以来、長きに亘り約3万2千名の有為な人材を世に送り出してきました。教育に情熱を注いできた幾多の教職員、及びそれに応えるべく研鑽を積み、社会の発展に貢献した、また現に活躍している多くの卒業生に想いをいたす時、改めて紡いで来た歴史の重みを感じます。

120年という歴史の積み重ねは、その長さが故に尊いのではなく、理想とする教育を実現するために、常に新しいものを追求め、たゆまぬ変革への努力を続けて来た

ことにこそ、価値があるのだと思います。

1980年代の半ばに、「会社の寿命は30年」ということが盛んに言われました。現状維持は退歩であり、何も変革しなければ、ビジネスモデルが陳腐化し、稼ぐ力が衰えて、会社は30年程度で消滅するという主旨でした。社会が多様化・複雑化し、加えてテクノロジーの進化により、急激に変化する昨今では、その期間は、間違いなくもつと短くなっています。

学校は、営利法人ではありませんが、質の高い教育の維持・向上のために、またその時々時代の要請に適應するため、変革を続けていかなければ、魅力を失い、いざれ存続が難しくなる、という点では、同じことが言えます。

本校の歴代の経営者や学校長をはじめ教職員は、学校の発展、あるいは生徒の成長に資するものであれば、新しいものを躊躇なく取り入れ、教育内容の改革に取り組んできました。中でも本校の変革・改革を語る時、

徳間康快先生の業績を挙げなければなりません。私は残念ながら嚙咳に接することはありませんでしたが、先生は本校の卒業生で、徳間書店、スタジオリブリなどの経営にあたらねながら、昭和59年(1984年)2月から、平成12年(2000年)9月まで16年半余り、その間4年ほどの校長兼務を含め、理事長を務められました。

就任されると、昭和55年(1980年)に起きた北アルプス八方尾根での山岳部の遭難による混乱を收拾するだけでなく、直ちに教育内容の改革に着手されました。進学校化、映像による情操教育、目の前に広がる海を活用した海洋教育の3つの教育目標を掲げ、具体的に教育内容に反映していき

ます。同時に学校施設・設備の拡充など教育環境の整備にも力を注ぐとともに、中止していた中学校の募集再開による中高一貫教育の復活、国際交流など、驚くほどのスピードで改革を断行されました。

先生が示された教育目標は、その後本校の教育プログラム基礎となり、更に肉付けされ、内容も充実して現在に引き継がれています。120年の歴史の中でも、本校が最も大きく変革した時期であり、全く新しい学校に生まれ変わったと言っても過言ではない程の抜本的な改革でした。

理事長在任中に病を得られ他界された徳間先生は、常々「返子開成を日本一の学校にするんだ」と口にされていたと聞いています。先生の崇高な志は、未だ途半ばですが、その想いをしっかりと受け止め、これからも返子開成ならではの、特色のある教育の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

結びに、記念式典に列席している在校生の皆さんに期待することを申し上げます。今日皆さんは、創立120周年という歴史的な日に立ち会っています。そこで皆さんには、先輩達が積み上げて来た歴史と伝統を、敬意を持って振り返ると同時に、これからの新たな歴史を創り、担っていくのは自分達だという決意を新た

にして欲しいと思います。長い歴史の根底には、常に建学の精神である「開物成務」があります。「物事の理(ことわり)を開き示し、天下の務めを達成する」、先輩達がそうであった様に、皆さん一人一人が、高い志を持って社会の発展に貢献することを目指して行動する時、返子開成の歴史は、一層輝きを増すことになると思います。

それでは、今日の記念日を共に祝い、そして120周年の標語「広がる海、まだ見ぬ景色へ」を合言葉に、新たな歴史の大海原へ、さあ！力強く漕ぎ出しましょう。

皆さんに、希望に満ちた未来を託して、式辞とします。

吹奏楽部の演奏



史は、一層輝きを増すことになると思います。

それでは、今日の記念日を共に祝い、そして120周年の標語「広がる海、まだ見ぬ景色へ」を合言葉に、新たな歴史の大海原へ、さあ！力強く漕ぎ出しましょう。

皆さんに、希望に満ちた未来を託して、式辞とします。

吹奏楽部の演奏

逗子開成中学校・高等学校

校長 小和田 亜 土



創立120周年を迎えました。世界中の人々がコロナウイルスと対峙し、

創立者は当時東京開成中学校の校長を務められていた田邊新之助先生でした。開校当初は逗子池子の東昌寺の境内に居を構えましたが、その年の秋には、逗子海岸の中央にあたるこの逗子新宿の地に移転しました。そして、1909年には東京開成中学校から分離独立して、私立逗子開成中学校となりました。

逗子開成は、今日までの間に、いくたびか難しい局面を経験してきました。例えば、関東大震災において本校校舎が全壊しました。太平洋戦争の前後において教育活動は軍事的な影響を受けた一方で戦後民主化政策のもとでその内容が大幅に変更されました。また、本校生徒や教員が命を落としたり痛ましい七里ガ浜ボート遭難事故や山岳部の八方尾根遭難事故の発生は、あるべき安心・安全な教育活動の教訓として今日まで語り継がれています。

その都度、その時代性や社会の動向を見据えた新たな教育活動が掲げられてきたことは、特筆すべきことだと思えます。そしてそのすべてに、本校の建学の精神である「開物成務」の意思が通底していることは言うまでもありません。

今日逗子開成における教育活動の指針は、1985年にその大枠が示されました。1984年に理事長に就任された徳間康快先生は、中学の募集を再開するにあたり、カリキュラムを見直し、ヨット実習や遠泳実習を含む海洋教育、映像教育、ICT教育、海外研修などを打ち出し、大幅な学校改革を進めました。現在、これらの教育活動はさらにステップアップし発展させたかたちで行なわれています。その結果、今や学力はもとより生徒の主体性や協同性も大いに伸長しつつあると私は感じております。

これは「今」という時間の組み合わせ「今」という時間を皆さまと共有する機会をもつことができ、生徒の皆さんは、先輩方の歴史を支えに自信をもって生きていきます。以上をもちまして、校長の式辞といたします。

うらかなに春風も心地よい頃、本日、こうして逗子開成創立120周年の記念式典をおこなうことができました。これもひとえに日頃より本校に関わっていただいている皆様のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

変化を強いられ先の読みにくい時代において学校で育むべきかけがえのないものは何か。この問いに対して、本校では、コロナ禍がもたらした急激な社会変化をふまえないながらも、この120年にわたる教育活動の積み重ねのなかから、その育むべき大切なものを再認識し新たな歩みを進めていく所存です。

逗子開成は、私立東京開成中学校の分校として1903(明治36)年4月18日に誕生しました。当初は「各種学校私立第二開成学校」とよばれ、

が、その都度、その時代性や社会の動向を見据えた新たな教育活動が掲げられてきたことは、特筆すべきことだと思えます。そしてそのすべてに、本校の建学の精神である「開物成務」の意思が通底していることは言うまでもありません。

これから世界はますます変化の激しい、予測の立ちにくい時代に入っていくでしょう。その際、主体性や協同性は生き抜くうえで欠かせない価値をいっそう帯びていくに違いありません。今の生徒を見てみると、彼らはやがてそれぞれに社会で活躍していくだろうと期待するばかりです。

時間というものは人間が生み出した概念ですが、人の成長や教育という視点からみたと、その時間とは、単なる物理的な時間というよりも、過去と現在と未来が混在した「今」という時間、いわば「生きられた時間」と捉えることで、より深い意味合いを帯びるのではないのでしょうか。私

これは「今」という時間の組み合わせ「今」という時間を皆さまと共有する機会をもつことができ、生徒の皆さんは、先輩方の歴史を支えに自信をもって生きていきます。以上をもちまして、校長の式辞といたします。

また、桐ヶ谷逗子市長様、神奈川県私立中等高等学校協会の工藤理事長様をはじめ、ご来賓の皆様には、ご多用のところ足をお運びいただきまして、誠にありがとうございます。

世界がコロナ禍から脱しつつあるなか、本校は

創立者や当時の教職員や生徒、本校関係者の方々のお力により乗り越えられてきました

観点からみれば、創立120周年を迎えるにあたり、生徒が様々なプロジェクトを立ち上げて取り

これは「今」という時間の組み合わせ「今」という時間を皆さまと共有する機会をもつことができ、生徒の皆さんは、先輩方の歴史を支えに自信をもって生きていきます。以上をもちまして、校長の式辞といたします。

これは「今」という時間の組み合わせ「今」という時間を皆さまと共有する機会をもつことができ、生徒の皆さんは、先輩方の歴史を支えに自信をもって生きていきます。以上をもちまして、校長の式辞といたします。

これは「今」という時間の組み合わせ「今」という時間を皆さまと共有する機会をもつことができ、生徒の皆さんは、先輩方の歴史を支えに自信をもって生きていきます。以上をもちまして、校長の式辞といたします。



プロジェクトチームのプレゼンテーション

# 返子開成中学校・高等学校創立120周年に寄せて

## 返子開成学園校友会

### 会長 後藤 寿一



返子開成学園創立120周年おめでとうござい  
ます。1903年(明治  
36年)東京開成中学校の  
分校として設立。今日の  
輝かしい発展に至るまで  
の歩みの中、学校運営が  
軌道に乗ったことへの  
1910年(明治43年1  
月23日)七里ヶ浜ポー  
ト遭難事故が起き、本校  
生徒と小学生を含む12名  
が帰らぬ人となりました。  
出帆時重量の関係で年少  
の山田俊介氏と上村英輔  
氏は船を降ろされ、遭難  
から回避されました。そ  
の後、山田俊介氏は本校  
第二代理事長(元返子市  
長)、上村英輔氏は第三  
代理事長(元日本石油株  
式会社、現エネオス会長)  
として、本校の発展のた

(高19回)

めに貢献されました。  
1980年(昭和55年)  
12月26日、北アルプス八  
方尾根で山岳部員5名、  
顧問教諭1名が遭難する  
という痛ましい事故が発  
生し、学校、保護者、地  
元関係者の皆様と全力を  
挙げての捜索に当たりま  
したが、残念ながら翌年  
の5月全員が遺体で見  
られました。しかし、こ  
の事故処理を巡って遺族  
側と学校側が対立。この  
問題を解決するため、私  
達の大先輩でもあります  
徳間康快氏が理事長に就  
任されました。

徳間理事長は事故処理  
の解決に向けて尽力さ  
れ、その後も学園立て直  
しのため、かつての返子  
開成のように有数の進学  
校になること、また、学  
力のみならず、健全な肉  
体と精神を兼ね備えた人  
間を育てることを教育改  
革の一環として掲げまし



式典に寄贈されたフラワースタンド  
52会(高29回)、鎌倉女学院、聖和学院

た。その改革は脈々と引  
き継がれ、2023年度  
の大学入試では、国公立  
大学129名他、早稲田  
84名、慶応62名、上智58  
名、東京理科大105名、  
MARCH358名な  
ど、有力私大への合格者  
を多数出しており、進学  
校としての地位を確立し  
ています。このように長  
い歴史の中で幾多の辛苦  
を乗り越え、発展を続け  
てきた返子開成の創立1  
20周年の節目に立ち会  
えたことは、大変光栄な  
ことであると思っております。

校友会といたしまして  
も創立120周年記念事  
業の一環として『創立1  
20周年兼吹奏楽部創部  
95周年コンサート』を学  
校「主催」校友会「共催」  
という形で実施。記念グ  
ッズとして生徒のアイデ  
アによるビーチサンダル  
を「げんべい」とのコラ  
ボで作成。八方尾根開成  
ケルン修復工事の契約に  
至るまでの手配をいたし  
ました。



田辺先生の肖像写真  
『本校創立三十周年記念誌』  
(1932)に掲載

## 建学の精神

### 返子開成学園元校長 袴田 潤一

返子開成創立百二十  
年、おめでとうございま  
す。返子開成の教育に微  
涓をおくった私自身とし  
ても、創立百二十年を嬉  
しく思います。こうした  
節目にこそ、建学の精神  
を改めて心に刻むことが  
今後の五十年、百年の返  
子開成にとって重要なこ  
とだと思えます。

校名のもとになってい  
る「開物成務」が建学の  
精神であると語られるこ  
とがあります。しかし、  
それは正確ではありません  
。本校は「私立東京開  
成中学校」の分校として  
創設されましたが、「開  
物成務」は東京府立時代  
の校名改称(旧名は共立  
学校)の精神であり、返  
子開成の建学の精神は  
「第二開成中学校創設趣  
旨」を考えなければなり  
ません。創設趣旨の論理  
は次のようなものです。

①心身の健全な人間を育  
てるには中学期の教育が  
最も重要である。②その  
時期は外誘にかかり易い  
ので、よい環境(「自然  
ト人トノ善感化ヲ受ケン  
ムル」、つまり豊かな自  
然に恵まれ、社会の弊毒  
から離れている)での教  
育が必要である。③返子  
は外誘の多い都市から距  
つており、自然環境にも  
恵まれている。①は東京  
開成での教育の充実によ  
り達成されます。また、  
③については、横須賀鎮  
守府の将校の子弟の教育  
の便宜にと海軍からの  
要請があったとも言わ  
れます。しかし、教育  
者としての内的な動機  
があった筈で、それは  
②に収斂します。創設  
趣旨から読み取れる本  
校の建学の精神は「環  
境に恵まれた地で青少  
年の教育を行う」とい

うことに尽きます。  
ところで、田辺先生に  
「苦學」と題された論説  
があり(府立開成中学校  
『校友会雑誌』第十九号  
p.p.154 1899  
年11月)、そこには前記  
②を補うことが述べられ  
ています。「過分の金銭  
を懐にして誘惑多き繁華  
の都下」に出入すれば放  
蕩の挙句に身を打ち崩し  
てしまう。「金力万能の  
時代」ではあるが、苦学  
(の精神)が大切である  
と言っています。また、学  
問に優れるのみならず、  
志操堅固であること(「成  
務」に繋がることです)  
が有用な人物の条件で、  
堅固な志操は「自ら守る」  
という錬錬により育まれ  
るともあります。都会か  
ら離れた土地での青少年  
の知育・徳育の重要性が  
説かれているのです。

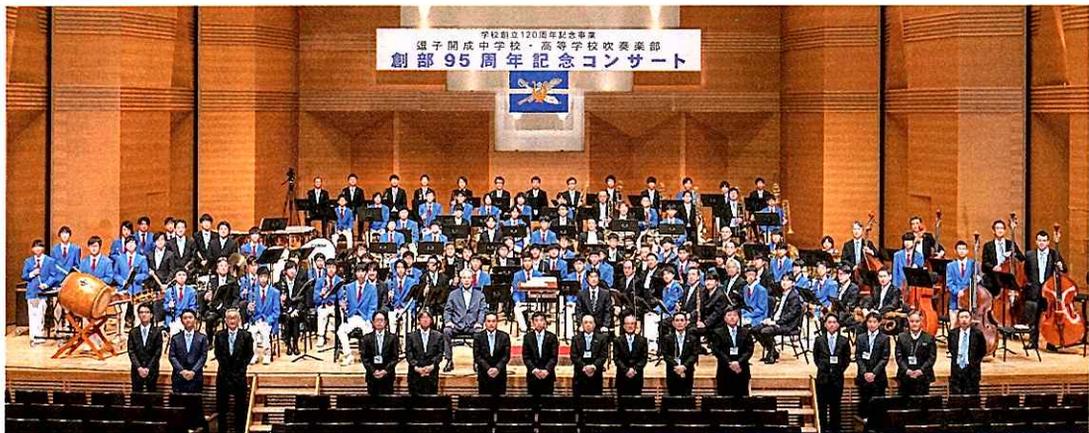
若者が友人や師からの  
善い感化を受け、直向き  
に学問に励む場としての  
返子開成がますます発展  
されることを祈っていま  
す。

※『校友会雑誌』の閲覧  
について開成学園のご協  
力をいただきました。心  
より感謝いたします。

### 創立120周年記念事業

## 響 縁 逗子開成中学校・高等学校吹奏楽部 創部95周年記念コンサート

# 響 縁



2023年2月11日、晴天の下、吹奏楽部創部95周年記念コンサートが鎌倉芸術館にて開催されました。この演奏会は学校創立120周年記念事業の一環として開催され、現役吹奏楽部員とO

Bの合同演奏会として5年ぶりとなります。演奏会のテーマは「響縁」。これは現役部員が考えたもので、現役とOBの縁、つながりを大切にし、共演で素晴らしい演奏を響かせるという願

いが込められています。開演前にはOB会が制作した記念映像が上映され、吹奏楽部の95年の歴史を振り返りました。第1部の現役部員によるステージは「ようこそジャパリパークへ」の演奏で華やかに幕を開け、続く「ウィーアー！」で会場は一気に盛り上がりました。木管五重奏による「ファンシーより」は、昨年の神奈川県アンサンブルコンテストで銀賞を受賞した演目。この演奏会でもとても美しい音色が披露されました。「いきものがかりコレクション」では、神奈川県出身で幅広い年代から支持されているいきものがかりの名曲をメドレーで演奏し、聴衆を楽しませました。

第2部は現役部員とOBの合同ステージ。総勢100名を超える大編成となり、「行進曲『逗子開成』(通称「開成マーチ」)の軽快な演奏でスタート。続く「開成讃歌『海』」では真白き富士の根をモチーフにした壮大な音楽が響き渡りました。そして、創部95周年を記念して本校吹奏楽部OBの矢部政男氏によつて作曲された「栄光のペ

ンと剣」を初演。締めくくりは、日本の伝統曲をアレンジした小長谷宗一氏作曲の「Japanese Tune」で、さくらさくらの美しいメロディーから、和太鼓の力強い音色が響き渡る八木節へと続き、演奏会はクライマックスを迎えました。矢部氏、小長谷氏の両名は客席に登場しておられ、曲の演奏後には指揮者の千葉大樹先生(本校吹奏楽部顧問)から紹介を受け、会場から大きな拍手が送られました。

第2部に演奏された4曲はいずれも本校のために作曲されたオリジナル作品で、創立120周年を祝うにふさわしいプログラムとなりました。約1500席の客席はほぼ満席となり、鳴り止まない拍手の中、感謝を込めてアンコールの「名譽の砲兵隊」が演奏され、華やかな音色と大きな拍手に包まれて演奏会は幕を閉じました。

在校生はコロナ禍で部活動にも制限が多かった世代です。そんな現役部員の皆さんの演奏会終了直後の表情は充実感に満ちており、現役生の若さとOBの熟練の技術が「響縁」し、音楽の持つ力が存分に発揮されたと感じました。演奏会の開催にあたって120周年記念式典にてプロジェクトセッションマッピングを実施



宝塚大学東京メディア芸術学部 教授 渡邊 哲意 (高44回) 4月18日に行われた120周年記念式典にて吹奏楽部の演奏に合わせたプロジェクトセッションマッピングを実施しました。私は現在東京新宿にある宝塚大学東京メディア芸術学部で教授として映像情報デザインの教育研究を行なっており、逗子開成の特徴的な教育「土曜講座」から生徒たちが取り組んだプロジェクトセッションマッピング制作に協力してきました。このような経緯から今回の記念式典の演出の依頼を受けました。実施したプロジェクトセッションマッピングは、吹奏楽部が演奏する團伊玖磨氏作曲の開成讃歌「海」の演奏に合わせて体育館ステージ側壁面をスクリーンとして投影。機材は私の研究室が所有する業務用プロジェクター6台を体育館後方に設置し、大画面での明るさを確保しました。映像についてはプロジェクトセッションマッピング専用ソフトウェアを用いて出力しました。映像の内容は、吹奏楽部の歴史写真を用いた「曲目解説」、校内の過去と現在の写真で比較した「今昔写真」、稲村ガ崎公園で撮影した動画を「ポート遭難の碑」と海」、校舎全景や生徒の活動の写真を用いた「現在の開成」で構成され、使用した素材は写真部の生徒たちの協力によるもので制作しました。制作の工夫点としては、通常のプロジェクトセッションマッピングは制作した映像と音楽が一体となったデータが再生されるのですが、今回は吹奏楽部の生演奏

は、校友会から多大なご支援を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。吹奏楽部は5年後の創部100周年、さらにその先へ向かってこれからも発展してまいります。吹奏楽部OB会 副事務局長 蝦名 友和 (高59回)

# 創立120周年記念事業

## 「げんべい」とのコラボでビーチサンダルを作成

現役の生徒の企画で校友会が窓口となり逗子・葉山地区で有名な「げんべい商店」とのコラボで逗子開成創立120周年記念のオリジナルビーチサンダルを作成しました。

作成したビーチサンダルは水泳授業が始まる前の5月22・24・26日の3日間、事務所前のウッドデッキで販売会を行い、生徒、教員、学校のFaculty bookを通じて知った校友とご家族が購入しました。サンダルは大変好評で、700足以上を販売し、売り上げの一部は学校へ寄付します。今後は校友会の本部や



「げんべい」とのコラボビーチサン完成 (げんべい×生徒×校友会)

色&サイズ: ネイビー&イエロー 27cm (380足) & (販売数) ネイビー&イエロー 25cm (120足) ブル&ホワイト 27cm (380足) グリーン&イエロー 25cm (120足)

販売日時: 5月22日(月) 昼休み & 放課後  
24日(水) 昼休み & 放課後  
26日(金) 昼休みのみの販売

販売場所: 事務所前ウッドデッキ  
※できる限りお早めの購入をお願いします。

逗子開成学園校友会



地区会のイベント等を利用して販売したり、校友会のホームページやFaculty bookからの購入も検討していく予定です。

今回の生徒からの企画を校友会で実現した経験を活かした活動も計画していく予定です。

# 八方尾根開成ケルン修復

昨年10月19日に現地に入って行った八方尾根開成ケルンの修復依頼に対して現地建設会社から提出された見積もりを、学校側と精査しケルン修復の正式発注を行いました。

修復に必要な各種手続きを行う中で、ケルン建つ場所の白馬村と結んでいた40年間の土地無償貸付契約が本年3月末で切れることが発覚し、改めて30年間の無償貸付の契約を結ぶこととなりました。この節目に再契約を行うことができたことに安堵するとともに遭難された方々との縁を感じずにはいられません。

再契約については6月の白馬村村議会で審議、承認がなされ、早々に修

復作業に入りました。7月初旬には修復作業が完了する予定です、それに合わせて後藤会長が現地へ赴き、状況を確認します。

8月初旬に学校、校友会と教師OBが八方尾根



開成ケルンに於いて竣工式を行う予定です。

現地の八方尾根は自然環境が過酷な場所です、そこに建つ開成ケルンが受ける負荷も大きなものです。そのために定期的な



確認が必要で、今後も稲村ヶ崎のポルト遭難碑と共に校友会や各年代のOB有志で慰霊し次代へつないでいきます。

## 2023年度大学合格実績

国公立大学	2023年度		2022年度	
	合格	現役	合格	現役
東京大	7	7	9	7
東京工業大	7	7	2	2
一橋大	6	6	7	7
京都大	5	4	3	1
北海道大	17	12	19	18
東北大	10	9	8	8
大阪大	2	2	1	1
名古屋大	1	1	2	2
神戸大	3	2		
東京芸術大	1			
横浜国立大	21	20	14	12
横浜市立大	2	2	4	4
東京都立大	4	4	5	1
東京海洋大	4	3	3	2
東京学芸大	2	1	2	1
東京農工大	2	2	3	3
電気通信大	3	2	3	
筑波大	4	4	2	2
千葉大	5	3	2	1
信州大	3	2	3	2
その他国公立	20	16	24	15
国公立大学合計	129	109	116	89

私立大学	2023年度		2022年度	
	合格	現役	合格	現役
早稲田大	84	68	62	54
慶応義塾大	62	54	48	36
上智大	58	46	30	25
国際基督教大	3	3	3	2
東京理科大	105	85	96	81
明治大	155	138	96	80
青山学院大	35	30	26	23
立教大	48	40	41	35
中央大	68	57	46	35
法政大	52	45	43	31
学習院大	6	3	13	9
立命館大	7	7	6	4
同志社大	1		3	3
その他私立大	446	324	418	300
私立大学合計	1130	900	931	718

防衛大学校	2	2
防衛医科大学	4	2

医学部	50	26
-----	----	----

## 2023年度 中学入試結果

	1次入試	2次入試	3次入試	帰国生入試
入試実施日	2月1日(水)	2月3日(金)	2月5日(日)	12月26日(月)
合格発表	2月2日(木)	2月4日(土)	2月6日(月)	12月26日(月)
募集人数	150名	50名	50名	若干名
志願者数	485名	463名	496名	60名
名目倍率	3.23倍	9.26倍	9.92倍	—
受験者数	464名	404名	446名	57名
合格者数	211名	86名	99名	27名
実質倍率	2.20倍	4.70倍	4.51倍	2.11倍
入学者数	123名	70名	71名	12名
合格最高点	430点	442点	430点	
合格最低点	312点	344点	339点	
合格者平均点	343.7点	363.7点	368.0点	☆
受験者平均点	301.0点	307.1点	294.5点	

# 令和5年度校友会総会開催

令和5年度校友会総会は6月3日(土)、母校徳間記念ホールで開催された。

また、逗子開成学園志村理事長、逗子開成中学校・高等学校から小和田学校長、PTAから高取会長を来賓にお迎えし、午後2時半、総会に先立ち、吹奏楽部OB会が田中秀明さん(高30回)の指揮により「開成マーチ」を演奏。

その後、目黒泉幹事長(高25回)の司会で開会が宣言された後、吹奏楽部OB会の演奏にあわせ、参加者全員で校歌斉唱。4年の間に亡くなられた校友へ対し黙とうの後、来賓の紹介。千葉琢巳特別顧問(高10回)の紹介と進んだ。

続いて後藤寿一校友会会長(高19回)が挨拶。2019年の総会以来コ



ロナ禍で対面での総会ができず書類審議になっていた状況説明や、そんな中でも母校は着実に前に進んでいることを紹介。母校、生徒への物心両面に亘る支援をなお一層図るため、校友の支援を呼びかけた。

議事に入るにあたり、議長に網倉大介副会長(高37回)が選出された。第1号議案として、令和4年度事業及び決算報告、会計監査報告、第2号議案として、令和5年度事業計画(案)、予算(案)が上程審議され、いずれも原案の通り承認可決された。

第1号議案  
令和4年度事業報告  
1. 校友会本部機能の活性化  
1. 1 会則の改訂・第3号議案に上程  
1. 2 委員会メンバーの壮年層及び若年層の登用拡大  
・ 7名が常任幹事として参加、1名が令和5年度初めから参加となる

1. 3 会員増強策・会員減に歯止めがかからず、現状策では打開に至っていない  
・ 令和4年度991名(前年比▲60名)、東京会・横浜会・横須賀会・湘南会が7.15%減  
・ 特に壮年層・若年層の獲得が課題  
1. 4 広報委員会  
・ 開物成務67号・68号で現役大学生からの寄稿で広い世代の関心を得た  
・ 次号69号は母校創立120周年を特集し、未来に向けたメッセージの掲載  
・ 68号は各地区会郵送から本部一括のメール便に変更し、経費削減と配達率UP達成  
1. 5 ITプロジェクト  
・ 個人情報保護法に則り、データ保管場所変更とアクセス権者を20人選任し、2回の講習会を実施(グループワークスペース)  
・ 校友の個人情報はデータベース管理ソフトで本部が一括管理し、それを地区会ごとに振り分け、

エクセル変換したデータをグループワークスペースに地区会担当者はアクセス(パスワード管理)  
2. 年会費納入会員の増強  
2. 1 校友会費払込について、ゆうちょ銀行及び市中銀行へのWeb払込拡大を啓蒙  
2. 2 若年校友同窓会支援はコロナの影響で実績なし  
3. 財政基盤の強化  
3. 1 グッズ開発・販売  
・ 120周年スウェット  
・ 従来のマフラータオル  
・ 入荷済/ネクタイ(横浜元町ポピーとのダブルネームVer.2)発注/など校友会HPへ順次アップ予定  
3. 2 在庫圧縮・10月21日・22日の開成祭にて集中販売実施・R3年度在庫額25万6千円の内14万7千円売上  
4. 母校生徒への支援・カナダ・アメリカへの長期留学各1名、クラブ助成(柔道部2・ヨット部3・水泳部3・演劇部1)  
5. 母校創立120周年への対応  
5. 1 校友会として神奈

川新聞広告掲載・クラブOB会6団体とPTA広告見出し「3世代『逗子開成』です」  
5. 2 八方ケルンの修理2009年と比べ2020及び2022年のチェックで土台下部の崩壊が激しく、地元役場と施工業者に修理申請と依頼を出し、令和5年雪解けを待つ作業開始とした  
5. 3 現役生徒とのコラボによる「げんべい」製ビーチサンダル(デザイン企画・生徒、デザイン意匠&発注管理・校友会)の制作・販売(生徒及び校友会)  
5. 4 吹奏楽部創設95周年記念コンサート(創立120周年コラボ)開催支援  
6. 地区会統合・川崎会・横浜会/横須賀会・三浦会(主としてDBの統合)/葉山会・逗子会・鎌倉会(統合作業中)

第2号議案  
令和5年度事業計画(案)  
令和4年度の会費納入校友は1,000人を割りました。ここ数年、コロナ禍もあり、イベント開催など積極的な勧誘活動が出来ず前年割れを続け上記となりました。  
一方、ITインフラの基盤整備が整いつつあり、データベースの積極活用や、SNSやHPを駆使した、イベント開催告知や広報活動など、令和5年度は、会費納入校友の回復と校友会運営のための財政基盤の強化を柱とした活動を目指します。

1. 財政基盤の拡充  
・ 商品開発委員会再発足

によるグッズ販売の活性(リアル&web)  
・ 若手幹事登用による校(次ページへ続く)

高取PTA会長  
小和田校長  
志村理事長



友ネットワーク構築での  
 会員獲得  
 ・地域及びクラブOB会  
 など既存会員のフオリ  
 強化による囲い込み  
 2. 校友会活動の活性化  
 ・コロナ5類移行に伴う  
 イベントの復活  
 ・校友会HPコンテンツ  
 強化による有効情報の拡  
 散  
 3. 母校との連携強化  
 ・生徒支援の更なる強化  
 ・部活動などの課外行事  
 に対する人的支援の検討  
 とする。

項にて常任幹事会招集を  
 会長としたため  
 第18条(総会の時期)  
 1. 定時総会は、毎事業  
 年度終了後原則2ヶ月以  
 内に開催する。  
 追加事由・不測の事態発  
 生に対応するため(令和  
 5年度6月3日)  
 第20条(役員会の種類)  
 役員会の種類とその招集  
 権者は次のとおりとす  
 る。  
 「(1) 地区会長会 会  
 長」を削除し削除事由…  
 第11条(1)にて地区会  
 長会を削除したため  
 「(1) 常任幹事会 会長  
 変更事由…第11条(1)  
 を削除したため、(2)  
 を(1)にするとともに  
 招集権者を会長とする  
 第21条 (委員会)  
 2. 常設委員会は、総務  
 委員会、組織委員会、広  
 報委員会、商品開発委員  
 会とする  
 「商品開発委員会」を追  
 加し追加事由…商品開発  
 PTとしていたが、今後  
 PB事業強化のため委員  
 会に昇格 以上



校友会総会に集まった皆さん(海洋教育センター)

収支計算書					令和5年度 予算(案)				
令和4年4月1日～令和5年3月31日					令和5年4月1日～令和6年3月31日				
返子開成学園校友会					返子開成学園校友会				
単位:円					単位:円				
<b>一般会計</b>					<b>一般会計</b>				
科目	予算額	決算額	差異	備考	科目	予算額	実績	差異	R4年度実績
<経常収入の部>					<経常収入の部>				
総収入	0	0	0		総収入	6,877,800	4,110,688	2,767,112	4,110,688
入会費	1,355,000	1,350,000	△ 5,000		総常収入合計	6,877,800	4,110,688	2,767,112	4,110,688
入会費	2,200,000	1,984,000	△ 216,000		<経常支出の部>				
地区役員費	(2,200,000)	(1,818,000)	(△ 382,000)		総常支出	6,868,000	3,988,746	2,879,254	3,988,746
地区役員費	100,000	40,000	△ 60,000		総常支出合計	6,868,000	3,988,746	2,879,254	3,988,746
広報費	200,000	242,700	△ 42,700		経常収支差額	9,800	121,942	112,142	121,942
祝賀費	200,000	0	△ 200,000		経常収支差額	9,800	121,942	112,142	121,942
寄附金	200,000	488,000	△ 288,000		固定資産取得支出	720	575	△ 145	575
前受金	5,000	1,389	△ 3,611		前期繰越収支差額	1,193,210	1,193,210	0	1,193,210
前受金	4,000	4,000	0		次期繰越収支差額	1,143,290	1,314,577	171,287	1,314,577
前受金	800	599	△ 201						
経常収入合計	4,284,800	4,110,688	△ 174,112						
<経常支出の部>									
総常支出	18,000	20,159	△ 2,159						
総常支出	10,000	10,320	△ 320						
事務費	20,000	42,694	△ 22,694						
印刷費	10,000	45,905	△ 35,905						
通信費	500,000	168,730	△ 331,270						
手数料	50,000	26,034	△ 23,966						
広報費	500,000	297,000	△ 203,000						
形費	100,000	30,000	△ 70,000						
形費	200,000	224,079	△ 24,079						
形費	130,000	129,450	△ 550						
形費	600,000	517,440	△ 82,560						
形費	100,000	133,936	△ 33,936						
形費	35,000	47,430	△ 12,430						
形費	50,000	0	△ 50,000						
形費	250,000	60,000	△ 190,000						
形費	250,000	220,000	△ 30,000						
形費	500,000	676,254	△ 176,254						
形費	770,000	909,000	△ 139,000						
形費		421,065	△ 421,065						
形費	200,000	0	△ 200,000						
形費	6,000	6,000	0						
形費	0	3,150	△ 3,150						
形費	5,000	100	△ 4,900						
形費	30,000	0	△ 30,000						
経常支出合計	4,234,000	3,988,746	△ 245,254						
経常収支差額	△ 49,200	121,942	171,142						
(その他資金収入の部)									
前期未収入金	0	0	0						
その他資金収入合計	0	0	0						
(その他資金支出の部)									
前期未払金	0	0	0						
固定資産取得支出	720	575	△ 145						
その他資金支出合計	720	575	△ 145						
当期収支差額	△ 49,200	121,367	171,287						
前期繰越収支差額	1,193,210	1,193,210	0						
次期繰越収支差額	1,143,290	1,314,577	171,287						



# ボート遭難碑清掃

## 1月21日

今年も清掃実施頃はまだコロナ禍の影響も残っており、後藤校友会会長、卒業仲間52会を代表して大須賀校友と鎌倉会より志村さん、小磯さん、柳引の5人で行いました。清掃は碑の台座に上り像を丁寧な清掃する人達、正面台座に嵌めこま



逗子開成学園では過去にボート遭難と八方尾根

遭難の悲しい出来事がありました。今回も清掃に参加した大須賀校友は、新型コロナウイルス禍前にはほぼ毎年52会の仲間と両方の遭難碑を訪れ、特に昨年は八方尾根遭難碑の崩壊修復申請手続きはじめ施行業者との段取りを母校とともに進めています。清掃作業時期のボート遭難碑のある稲村ヶ崎からの江の島と雪をかぶった富士山の眺望は絶景であり、是非訪れてください。

鎌倉会会長 柳引 信明 (高17回)

# 田邊学祖の墓参

## 2月18日

墓参には後藤校友会会長、鎌倉会から志村、小磯、宮崎、柳引の4会員で墓碑清掃と線香を供えました。

現在も開学の精神を受け継ぎ、輝かしい歴史を連綿とつないでいくことに感謝しつつ、鎌倉会としてはい

新新型コロナは5月8日をもって規制が解除されましたので、来年からはコロナ禍以前に墓参して頂いた皆様に

4月18日に行われた母校創立120周年式典では、生徒が主体となった「120周年プロジェクトチーム」で作成された神奈川県下で最も歴史のある母校の開学の祖であり、また鎌倉女学院の開学の祖でもあることが披



再度お声かけをします。 鎌倉会会長 柳引 信明 (高17回)

# 相撲部OB会総会開催

令和5年度相撲部OB会総会が7月1日(土)に煌蘭横浜店にて3年振り開催されました。前回の令和2年2月の総会で新会長に就任した小池隆興会長(高29回)として対面での開催は初となりました。

(高5回)に挨拶をいただきました。今回の総会参加者は会員8名、来賓10名でした。来賓としてご参加いただいた菅野さん、菅原さん他、一八会の皆様、高29回の皆様ありがとうございました。この3年間に相撲部OB会を支えていただいた方々が多くお亡くなりになりました。特に山崎和夫さん(高13回)、照井昭男前会長(高15回)、白川康夫さん(高15回)は立ち上げから運営、他

クラブOB会や校友会との連携に尽力されました。懇親会は明石和治さん(高13回)の乾杯でスタート。途中初参加の梶朋宏さん(高37回)も加わり、久しぶりの相撲部話に花が咲きました。今回会場とした煌蘭横浜店は逗子開成OBの石井武夫さん(高25回)が料理長を務めており、ご厚意で予定時間を1時間以上延長していただきました。来年以降も多くの



OBの方々に参加できるよう活動をしていくことを確認し閉会しました。

# 令和5年度春季高校相撲大会

## 相撲部OB会活動報告

例年4月29日(昭和の日)に関東高等学校相撲大会神奈川県予選が開催され、今年も柔道部の生徒たちが出場しました。神奈川県大会では団体戦にエントリーしたのは逗子開成、向の岡工業高校と新名旭丘高校の3校。個人戦には神奈川工業高校と慶応高校が加わり大会が開催されました。個人戦では3年生の菅野君が3位に入賞しました。

今年度の関東大会は6月10日・11日の2日間、山梨県甲府市にある古瀬ス

を期待します。現在、関東高校相撲大会は各県の高校の出場数に違いがあったため、今年から出場資格等の変更

望する生徒に対して相撲部OB会として支援と応援を継続していきます。相撲部OB会 大須賀裕司(高29回)

個人戦には神奈川工業高校と慶応高校が加わり大会が開催されました。個人戦では3年生の菅野君が3位に入賞しました。

今年度の関東大会は6月10日・11日の2日間、山梨県甲府市にある古瀬ス

を期待します。現在、関東高校相撲大会は各県の高校の出場数に違いがあったため、今年から出場資格等の変更



# 湘南会が総会開催

湘南会は、7月1日(土)午後、藤沢商工会館ミナパークで、本部や他の地区会同様、平成元年以来4年ぶりの対面での総会を開催した。

今年度はコロナ禍明けの総会で、参加人数がつかめない中、幹事が呼びかけた結果、学園から常任理事・事務長の岩佐直樹先生、校友会本部から特別顧問の千葉琢巳さん(高10回・湘南会所属)のお二人に来賓として参加いただき、賑やかに開催することが出来た。

柴田一男湘南会会長(高21回)は、今年4月に母校が創立120周年を迎え、4月18日に行われた記念式典の内容を報告。式典と校友会本部総会での理事長、校長の挨拶から、5月20日に開催されたオープンキャンパスに3千人もが来校したこと、新校舎建設について今年度中に基本構想が策定され、来年度から募金活動を始め、10年後の完成を目指すことなどを紹介した。湘南会として会員に呼びかけてより

多くの結集を図っていき、母校と校友会発展のため協力して、こうと挨拶した。

岩佐先生からは、最近の生徒たちの活躍の様子などが伝えられた。

総会後の懇親会は和やかに進められ、久しぶりに歌う校歌、応援歌で会場が沸いた。

湘南会会長 柴田一男 (高21回)



## 校友会企画 画売 返子開成グッズ続々発売

校章や返子開成キャラクター「ゴンズイ君」のイラストを刷り込んだ各種グッズを販売して

返子開成の人気グッズ紹介

定番 マフラータオル 運動部以外試合での現役グッズ! 1,500円

ZUSHI KAISEI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL SINCE 1903

Tシャツ ターコイズブルーの生地に白でロゴプリント 2,000円	Tシャツ 白地に紺色でロゴプリント 2,000円
スウェット(トレーナー) パーガンディー(赤ワイン色) 3,500円	スウェット(トレーナー) アイビーグリーン(濃い黄緑色) 3,500円

返子開成創立120周年

1903年に開校した財団法人は、1903年に創立120周年を迎え、記念日にあたる4月18日に母校を訪問し、校友会は、これを記念して120周年記念グッズを開発し、販売しています。

います。開成祭や校友会総会などで販売するほか、毎月行われる校友会常任幹事会当日に来校いただければお問い合わせいただけます。

常任幹事会の日程はお問い合わせください。

Eメール: info@z-kaisei.org

## 2022年3月卒業 (高74回)の皆様へ

# 【2021年度 卒業生】 成人を祝う会

日時: 2024年1月7日(日)

18:30~20:30

受付: 18:00

会場: アートグレイス・ポートサイドヴィラ 『ニューヨーク邸』

幹事代表: 齋藤 勇斗

※詳細については同期連絡網にてお伝えいたします。

皆さまの参加、また再会を楽しみにしております。

## 返子会が総会開催

7月1日、校友会返子会総会を返子の魚勝(海鮮料理店)で開催しました。

出席者は最年長の第33期卒の三田村鳳治氏(御年101歳)から高57回卒の八木野太郎氏までの10人です。令和5年度の総会は、とどこうりなく終了し懇親会に移りました。

懇親会で雑談をしていると小島氏(高17回)と八木野氏が三田村氏が経営していた幼稚園の卒園児であることがわかり大変驚きました。

又、三田村氏と徳間氏は同級生で思い出話を聞かせて下さいました。三田村氏は大学在学中に学徒出陣し、特攻隊に入るも出撃直前で終戦を

迎えたとの事。かつて、国のためにと命を落とした学友たちを今も思いだすそうです。彼らの為に精一杯長生きできませう様心からお祈りいたします。

大変貴重なお話を聞かせていただき有難うございました。

返子会会長 鈴木 克幸 (高17回)



